

十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

信仰の光は皆さんの中に存在し、その光は神の御霊によって眠りから覚めて強められる日を待っているのです。

わたしの兄弟姉妹の皆さん。この大会を通じて、生ける預言者たちから天の父なる神と御子イエス・キリストについての証が与えられていることに感謝しています。また、聖霊からの教えに感謝しています。

預言のとおり、わたしたちは世俗主義という暗闇がますます深まっている時代に暮らしています。神への信仰が至る所で疑われ、政治的、社会的な理由、はては宗教の名の下でさえも、神への信仰が非難されることすらあるのです。無神論、つまり神は存在しないという考え方が急速に世界中に広まりつつあります。

そのような状況にあっても、回復されたイエス・キリスト教会の会員であるわたしたちはこう宣言しています。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」¹

神への信仰がなぜそこまで重要なのかと思う人もいるでしょう。なぜ救い主は「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります」²と言われたのでしょうか。

神がおられなければ、人生は墓とともに終わり、この世の経験に目的はなくなるでしょう。成長も進歩も一時的なもので、達成に価値はなく、人生の困難に意味はありません。根本的な善も悪もなく、神の子という同胞として、互いに思いやりを示すという道義上の責任もないでしょう。実際、神がいなければ、現世も永遠の命もないのです。

もし皆さんや皆さんの愛する人の中に、人生の目的を探し求め、人生における神の存在についてさらに深い確信を求める人がいれば、わたしは友人として、また使徒として、わたしの証をお伝えします。神は生きておられます。

どうしたら自分で知ることができますか、と尋ねる人もいるかもしれません。わたしたちは、神が生きておられることを知っていますが、それは昔の預言者たちの証、そして生ける預言者の証を信じているから、そして預言者の証が真実であると神の御霊が確認してくださるのを感じたからです。

聖文に記録されている預言者の証から、わたしたちは「神は人を創造された。すなわち、御自分の形に、御自分に似せて、男と女に創造された」³ ことを知っています。わたしたちが神に似ていると知り、驚く人もいるかもしれません。人の形をしておられる神を想像するのは刻んだ像を造ることであり、偶像礼拝、冒

瀆だと教えた著名な宗教学者もいたほどです。4 しかし、神御自身がこう言っておられます。「わたしたちの形に、わたしたちにかたどって人を造ろう。」5

この聖句で使われている「わたしたち」という言葉は、御父と御子の関係についても教えています。神はさらにこう教えられました。「わたしの独り子によって、わたしはこれらのものを創造した」6 御父と御子は、どの父と子も常にそうであるように、それぞれ別個の独立した存在です。これは、ヘブライ語で神の御名を表す「エロヒム」という言葉が単数ではなく、複数である理由の一つなのかもしれません。

新約聖書から、天の御父と御子が肉体を持った御方であられることが分かります。御二方は、新約の時代の弟子ステパノが「ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいでになるのが見える」7 と証したように、同じ時に同じ場所に立つことができになるのです。

わたしたちはまた、御父と御子が声をお持ちであることも知っています。創世記やモーセ書には、アダムとエバが、「日の涼しいころ……園の中を歩いていると、主なる神の声が聞こえた」と記録されています。8

わたしたちは、御父と御子が顔をお持ちで、立ち、言葉を交わされることを知っています。預言者エノクは次のように宣言しました。「わたしは主にまみえました。主はわたしの前に立ち、……人が互いに語り合うようにわたしと語られました。」9

わたしたちは、神と御子が体を持っておられること、つまりわたしたちの体と同じような形と構成要素をお持ちであることを知っています。モルモン書には「すると、ヤレドの兄弟の目から幕が取り除かれ、彼は主の指を見た。それは人の指のようで、血肉の指に似ていた」10 と書かれています。その後、主は御自身を現して、次のように言われました。「見よ、あなたが今見ているこの体は、わたしの霊の体である。わたしは……将来肉にあつてわたしの民に現れる。」11

わたしたちは、御父と御子がわたしたちに対して感情をお持ちであることを知っています。モーセ書にはこう記録されています。「すると、天の神が民の残りの者を見て泣かれた。」12

さらにわたしたちは、神と御子イエス・キリストが不死不滅の、栄光を受けた、完全となった御方であられることを知っています。救い主イエス・キリストについて、預言者ジョセフ・スミスは次のように記録しています。「その目は燃える炎のようであり、その頭髮は清らかな雪のように白く、その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた。また、その声……は大水の奔流のとどろきのようで〔あった〕。」13

現代にあつて、ジョセフ・スミスの証ほどわたしたちにとって重要な証はほかにありません。ジョセフは、この時代、すなわちイエス・キリストの再臨に先立つて福音が世界に広がる最後の時代にあつて、昔のキリストの教会を回復するため

に選ばれた預言者でした。それぞれの神権時代にあつて神の業を始めたすべての預言者と同様に、ジョセフ自身にも、救い主の再臨に世を備えさせるために、特に明確で力強い、預言者としての経験が与えられたのです。

14歳の少年であつたジョセフは、どの教会に加わるべきか知ろうとしていました。この問題について深く考えたジョセフは、聖書をひもとき、次の箇所を読んだのです。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は……惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」14

預言者の言葉を信じたジョセフは、疑うことのない、幼子のような信仰をもって家の近くの森に入ると、ひざまずき、祈りをささげました。後に、ジョセフはこう記録しています。

「わたしは自分の真上に、……光の柱を見た。

……そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。」15

御二方を見上げたジョセフでさえ、この方々が一体どなたなのか分からなかったことでしょう。ジョセフはまだ、神とキリストの真の属性について、見て、学んでいなかったからです。しかし、後にこう記録しています。「すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」16

この並外れた経験やそのほかの経験を重ねた預言者ジョセフはこう証しました。「御父は人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられる。御子も同様である。」17

預言者たちはどの時代であっても、これと同じような証を述べ、まさにこの大会でも述べ続けています。しかし、わたしたち一人一人には選択の自由があります。信仰箇条第11条はこう明言しています。「わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げない。」18

では、自分は何を信じるかということについて、ほんとうに真実なことをどのように知るのでしょうか。

わたしは証します。神についての真理は、聖霊を通して知ることができるのです。神会の第3の御方である聖霊は霊の御方です。「〔神に〕ついてあかしをする」

19 ことと「[わたしたちに] すべてのことを教え [る]」20 ことが聖霊の役割です。

一方で、わたしたちは聖霊の影響力を弱めないよう注意しなければなりません。正しいことを行わないとき、または疑う気持ちにとらわれたり、皮肉な見方をしたり、批判的になったり、ほかの人やその信仰に対して不遜になったりすると、御霊はわたしたちとともにいることができません。するとわたしたちは、預言者の言う、生まれながらの人のように行動してしまうのです。

「生まれながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」21 この「生まれながらの人は神の敵であり、……今後ともそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い……子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者とな [ら] ……ないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう。」22

もし聖霊の穏やかな影響力に従わないと、モルモン書に登場する反キリストであるコリホルのようになる危険に身をさらすこととなります。コリホルは神を信じなかっただけでなく、救い主、贖罪、預言の霊を嘲笑し、神とキリストは存在しないという偽りを教えたのです。23

コリホルは、ただ神を否定し、おとなしく自分の望む生き方をするだけでは満足しませんでした。信者をあざけったうえ、預言者アルマには、神の存在と神の力をしるしで示して自分を納得させるように迫ったのです。アルマの答えは、当時と同じように今でも重要な意味を持っています。「あなたはすでに数々のしるしを十分に持っている。あなたは神を試みようとするのか。あなたの同胞であるこのすべての人の証と、すべての聖なる預言者たちの証があるのに、あなたは『しるしを見せてくれ』と言うのか。あなたの前に聖文が置いてある。まことに、万物は神がましますことを示している。まことに、大地も、大地の面にある万物も、大地の運動も、また各々整然と運行しているすべての惑星も、それらのすべてが至高全権の創造主がましますことを証している。」24

結局、コリホルにはしるしが与えられます。コリホルは物が言えなくなっていました。「するとコリホルも、手を差し伸べて書き示し、言った。『……神の力によるのでなければ、わたしにこのようなことが決して起きないことも、わたしは知っています。また、わたしは神がましますことを前から知っていました。』」25

兄弟姉妹の皆さん。皆さんはすでに心の奥深くで、神が生きておられることを知っているかもしれません。まだ神についてあらゆることを知っているわけではなく、神の方法をすべて理解しているわけではないかもしれません。それでも、信仰の光は皆さんの中に存在し、その光は皆さんが生まれながらに持っている神の御霊とキリストの光によって、眠りから覚めて強められる日を待っているのです。

ですから、来てください。預言者たちの証を信じてください。神とキリストについて学んでください。そのために必要なステップは、昔の預言者や現代の預言者たちがはっきりと教えています。

神が生きておられることを知りたいという強い思いを育ててください。

その思いがあれば、天にかかわる事柄について深く考えるようになります。自分の周囲にある、神の存在を示す証拠に触れて感動するようになるのです。

心が和らぐと、わたしたちは聖文を調べ、26 謙虚に聖文から学びなさいという救い主の呼びかけに心を留める備えができます。

するとわたしたちは、これまで学んできたことが真実かどうかを、救い主イエス・キリストの御名によって誠意を込めて天の御父に問う用意ができるのです。ほとんどの人は、預言者が神に会ったように神にまみえることはないでしょう。しかし、御霊の静かな細い声によって、言い換えれば、聖霊がわたしたちの思いや心の中に告げてくださる考えや気持ちによって、神が生き、わたしたちを愛しておられるという否定できない知識を得るのです。

結局のところ、この知識を得ることが、地上に住む神のあらゆる子供たちの目標なのです。もし神を信じていたときのことを思い出せなかったり、信じることをやめていたり、あるいは真の確信を持ってないまま信じていたりするなら、ぜひお勧めします。今、神の証を求めてください。あざけりを恐れないでください。神を知ること、また御霊という伴侶から慰めを得ることで力と平安を受け、払った努力に対する永遠の報いを受けることでしょう。

それにとどまらず、皆さんは、神に対する自分自身の証をもって、愛する家族、子孫、友人、皆さん自身の生活、すなわち皆さんが愛するすべてを祝福することができますようになります。自ら神を知ることによって、皆さんは最大の賜物を人に与えるだけでなく、自分自身にも最大の喜びをもたらすことになるのです。

愛する天の御父の独り子、すなわちイエス・キリストの特別な証人として、神が生きておられることを証します。わたしは神が生きたもうことを知っています。皆さんや皆さんの愛する人たちも、心からへりくだって誠心誠意で熱心に神を探し求めるなら、確信とともに知ることができると約束します。証を得ることができるのです。そして、皆さんと皆さんの家族は、神を知るという祝福に永遠にわたってあずかることでしょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 信仰箇条 1 : 1
2. ヨハネ 17 : 3。強調付加
3. 教義と聖約 20 : 18。創世 1 : 27 ; モーセ 2 : 27 も参照
4. クリスター・スタンダール, "To Speak About God," *Harvard Divinity Bulletin*, 第 36 巻, 2 号 (2008 年春), 8-9 参照

5. 創世 1 : 26 ; モーセ 2 : 26。強調付加
6. モーセ 2 : 1
7. 使徒 7 : 56
8. モーセ 4 : 14。創世 3 : 8 も参照
9. モーセ 7 : 4
10. エテル 3 : 6
11. エテル 3 : 16
12. モーセ 7 : 28
13. 教義と聖約 110 : 3
14. ヤコブの手紙 1 : 5-6
15. ジョセフ・スミス——歴史 1 : 16-17
16. ジョセフ・スミス——歴史 1 : 17
17. 教義と聖約 130 : 22
18. 信仰箇条 1 : 11。強調付加
19. ヨハネ 15 : 26
10. ヨハネ 14 : 26
21. 1 コリント 2 : 14
22. モーサヤ 3 : 19
23. アルマ 30 章参照
24. アルマ 30 : 44
25. アルマ 30 : 52
26. ヨハネ 5 : 39 参照